

# 大統領就任演説 (1961年)

ジョン・F・ケネディ

1960年、ジョン・F・ケネディはリチャード・M・ニクソンを破り第35代合衆国大統領になった。第二次世界大戦の英雄であり、マサチューセッツ州選出の連邦下院議員と上院議員を務めたケネディとその若い家族は、楽観的で若々しい活気をホワイトハウスにもたらした。当時、共産党の率いるソビエト社会主義共和国連邦（ソ連）を相手にした米国の冷戦の戦いは、世界各地で一触即発の度を強めていた。ドイツからキューバ、さらには東南アジアにかけて、米国が支援する勢力とソ連が援助する勢力の間の緊張が高まり、壊滅的な核の応酬へと発展しかねない情勢となっていた。

1961年1月20日、ケネディはワシントンDCの連邦議会議事堂の石段で就任演説を行った。彼の言葉は、当時の死活的に重要な外交政策の課題に焦点を当てていた。彼は、米国は「いかなる代償も払い、いかなる重荷も負う」と述べて、共産主義の挑戦に対抗して自由の諸勢力を支援する米国の決意を示した。しかしながらケネディは、それに代わる構想もまた提示した。ソ連の国民と米国民に、軍備管理と交渉、そして「人類共通の敵、すなわち圧政、貧困、疾病、そして戦争そのものとの闘い」を呼びかけた。

年若い大統領としてケネディは、自らを「米国民の新しい世代」の一員とみなし、同世代の人々に対して、より良い世の中に向かって働くよう呼びかけることを恐れなかった。就任演説の中の最も有名な部分でケネディは、米国民に自己利益を超えて、自分の国のために働くよう促し、「あなたの国があなたのために何ができるかを問うのではなく、あなたがあなたの国のために何ができるのかを問うてほしい」と述べた。



第35代大統領ジョン・F・ケネディ

---

ジョンソン副大統領、議長、最高裁長官、アイゼンハワー大統領、ニクソン副大統領、トルーマン大統領、聖職者、そして国民の皆さん、

今日われわれは、政党の勝利を祝っているのではなく、自由の祝典を執り行っている。これは、始まりと同時に終わりを象徴するものであり、変化とともに再生を意味するものである。なぜなら、私は、1世紀と4分の3世紀近く前にわれわれの先達たちが定めたものと同じ荘厳な誓いの言葉を、皆さんと全能の神の前で誓ったからである。

今や世界は、大きく変貌している。死ぬべき運命にある人類が、あらゆる形の人間の貧困とあらゆる形

の人間の生命を根絶させる力を手にしているからである。しかし、それにもかかわらず、われわれの先達  
がそのために闘った同じ革命的な信念が、今も依然として世界中で争点となっている。それは、人間の権  
利は国家の寛大さからではなく、神の手からもたらされる、という信念である。

今日われわれは、自分たちがその最初の革命の継承者であることを忘れてはならない。今この時、この  
場所から、友人に対しても敵に対しても、次の言葉を伝えよう。すなわち、たいまつは米国民の新しい世  
代に引き継がれた、と。それは、この世紀に生まれ、戦争によって鍛えられ、困難で厳しい平和によって  
律せられ、われわれの古い遺産を誇りとし、そして、この国が常にそのために尽力してきた、そして、今  
日もわれわれが国内で、また世界中でそのために尽力している諸々の人権がゆっくりと奪われていく様子  
を目の当たりにしたり許したりすることを不本意とする世代である。

われわれの幸福を願う国にせよ、われわれの不幸を願う国にせよ、あらゆる国に対して、われわれは自  
由の存続と成功を確保するためなら、いかなる代償をも払い、いかなる重荷も負い、いかなる苦難にも立  
ち向かい、いかなる友人をも支持し、いかなる敵にも対抗することを知らしめようではないか。

われわれは、これだけのことを、そしてそれ以上のことを誓う。

われわれが文化と精神の起源を共有する古くからの同盟国に対して、われわれは誠実な友人としての忠  
誠を誓う。一致団結すれば、多くの共同事業において、できないことはほとんどない。分裂すれば、われ  
われができることはほとんどない。反目し合い、ばらばらに分裂すれば、とうてい強力な挑戦に立ち向か  
うことはできないからである。

われわれが自由世界への仲間入りを歓迎する新たな国々に対しては、植民地支配のひとつの形態が過ぎ  
去ったあとに、単にはるかに強固な専制政治にとって代わるようなことはさせないことを誓う。われわれ  
は、彼らが常にわれわれの意見を支持することを期待はしない。しかし、われわれは、彼らが彼ら自身の  
自由を強く支持することを望むとともに、過去において愚かにも虎の背に乗ることによって力を得ようと  
した者は、結局、その虎の腹の中に収まってしまったことを忘れずにいたい。

この地球の半分で、小屋や村落に住み、多大な窮乏の束縛から逃れようと苦闘している人々に対して、  
どんなに時間が必要とされようと、彼らの自助努力を助けるための最大の努力を誓う。それは、共産主義  
者がそうしているかもしれないからではなく、また彼らの票が欲しいからでもなく、それが正しいからで  
ある。もし、自由な社会が貧しい多くの人々を助けることができなければ、裕福な少数の人々を救うこと  
もできない。

われわれの国境の南に位置する、われわれの姉妹である各共和国に対しては、特別の誓約をする。進歩  
のための新たな同盟において、われわれの善意の言葉を善意の行動に移し、貧困の鎖を断ち切るために、  
自由な人々と自由な政府を支援する。しかし、この希望の平和革命が敵対的な勢力の餌食となつてはなら  
ない。われわれは、すべての近隣諸国に対して、米州のどこにおいても侵略と破壊工作に対抗するため、  
彼らに協力することを知らしめよう。そして、他のすべての勢力に対して、この西半球は今後も自分の家  
の主人であり続けるつもりであることを知らせよう。

世界の主権国家の集まりである国際連合、戦争の手段が平和の手段をはるかに追い越した時代の、われわれの最後の、そして最大の希望である国際連合に対して、われわれは、改めて支持を誓約する。国連が単なる罵り合いの場となることを防ぐために。新しい国家や弱い国家を守る国連の盾を強化するために。そして国連憲章の権限が及ぶ範囲を拡大するために。

最後に、われわれに敵対しようとする諸国に対しては、われわれは誓約ではなく要請を提示する。それは、科学によって解き放たれた暗黒の破壊力が、計画的あるいは偶発的に全人類を自己破壊させる前に、双方が新たに平和の追求を始めることである。

われわれは、弱みを示して彼らを誘惑することはしない。われわれの武器が疑う余地なく十分になったときに初めて、その武器が決して用いられないことを、疑う余地なく確信できるからである。

しかし、2つの偉大で強力な国家の陣営は、どちらもわれわれの現在の進路に安心できずにいる。現状では、双方ともに近代兵器のコストの重い負担に悩まされ、双方ともに死をもたらす原子兵器の着実な拡散に当然の警戒心を抱きながらも、双方とも引き続き人類の最終戦争を食い止めている不確実な恐怖の均衡を変えようと競争を続けているからだ。

そこで新たに始めようではないか。再び原点に立ち戻り、礼節は弱さの徴候ではなく、誠実さは常に証明されなければならないことを双方が思い起こしながら、決して恐怖心から交渉をしないようにしよう。ただし、決して交渉に恐怖心を抱かないようにしよう。

双方とも、われわれを対立させている諸問題をくどくど論ずるのではなく、何がわれわれを団結させる問題なのかを探究しようではないか。

双方とも、武器の査察と管理のための真剣かつ厳密な提案を、初めて作成し、他国を破壊する絶対的な力を、すべての諸国の絶対的な統制の下に置こうではないか。

双方とも、科学の恐怖ではなく、その驚異を呼び起こすことを追究しようではないか。一緒に天体を探査し、砂漠を征服し、病気を根絶させ、深海を開発し、芸術と通商を奨励しようではないか。

双方とも、団結し、この地球の隅々にまで、「重荷を取り除き……虐げられている者を解放しよう」というイザヤの言葉に留意しようではないか。

そして、もし協力の拠点が疑惑のジャングルを押し戻すなら、双方とも協力し、新たな試みの創造、つまり新たな力の均衡を生むのではなく、強者が公正で、弱者が安全で、平和が保持される、新たな法の世界の創造に乗り出そうではないか。

このすべてが、最初の100日間で達成されることはないだろう。それどころか最初の1000日間でも、この政権の任期中にも、あるいはわれわれがこの地球上に生きている間でさえも、おそらく達成されない

だろう。だが、とにかく始めようではないか。

市民同胞の皆さん、われわれの進路の最終的な成否は、私よりも皆さんの手の中にある。この国が建てられて以来、米国民の各世代は、国家への忠誠を証明することを求められてきた。軍務の召集に応えた米国の若者たちの墓は、地球を覆っている。

今、われわれを召集するラッパが再び鳴っている。それは、武器は必要ではあるが、武器を取れとの合図ではない。われわれは闘争の中にあるが、戦闘に参加せよとの呼びかけでもない。それは、年々歳々、「希望に胸躍らせ、苦難に耐えて」長いたそがれの闘いの重荷を引き受けよ、との呼びかけである。その闘争は、人類の共通の敵である圧政、貧困、疾病、そして戦争そのものに対する闘いである。

われわれは、これらの敵に対抗して、より実り多い生活を全人類に確保することのできる、南北の、東西の壮大な世界的同盟を築きあげることができるだろうか。皆さんは、その歴史的な努力に参加してくれるだろうか。

世界の長い歴史の中で、自由が最大の危機にさらされているときに、その自由を守る役割を与えられた世代はごく少ない。私はその責任から尻込みしない。私はそれを歓迎する。われわれの誰一人として、他の国民や他の世代と立場を交換したいと願っていない、と私は信じる。われわれがこの努力にかけるエネルギー、信念、そして献身は、わが国とわが国に奉仕する者すべてを照らし、その炎の輝きは世界を真に照らし出すことができるのである。

だからこそ、米国民の同胞の皆さん、あなたの国があなたのために何ができるかを問わないでほしい。あなたがあなたの国のために何ができるかを問うてほしい。

世界の市民同胞の皆さん、米国があなたのために何をするかを問うのではなく、われわれが人類の自由のために、一緒に何ができるかを問うてほしい。

最後に、あなたが米国民であれ、世界の市民であれ、今ここにいるわれわれに対して、われわれがあなたに求めるのと同じ力と犠牲の高い基準を求めてほしい。善良な良心を唯一の確かな報奨として、歴史をわれわれの行為に対する最後の審判として、神の祝福と助けを求めながらも、この地球上における神の御業を真にわがものとしなければならないことを知りつつ、われわれの愛するこの土地を導いていこうではないか。

提供：ジョン・F・ケネディ大統領図書館



# Inaugural Address (1961)

John F. Kennedy

Vice President Johnson, Mr. Speaker, Mr. Chief Justice, President Eisenhower, Vice President Nixon, President Truman, Reverend Clergy, fellow citizens:

We observe today not a victory of party but a celebration of freedom--symbolizing an end as well as a beginning--signifying renewal as well as change. For I have sworn before you and Almighty God the same solemn oath our forbears prescribed nearly a century and three-quarters ago.

The world is very different now. For man holds in his mortal hands the power to abolish all forms of human poverty and all forms of human life. And yet the same revolutionary beliefs for which our forebears fought are still at issue around the globe--the belief that the rights of man come not from the generosity of the state but from the hand of God.

We dare not forget today that we are the heirs of that first revolution. Let the word go forth from this time and place, to friend and foe alike, that the torch has been passed to a new generation of Americans--born in this century, tempered by war, disciplined by a hard and bitter peace, proud of our ancient heritage--and unwilling to witness or permit the slow undoing of those human rights to which this nation has always been committed, and to which we are committed today at home and around the world.

Let every nation know, whether it wishes us well or ill, that we shall pay any price, bear any burden, meet any hardship, support any friend, oppose any foe to assure the survival and the success of liberty.

This much we pledge--and more.

To those old allies whose cultural and spiritual origins we share, we pledge the loyalty of faithful friends. United there is little we cannot do in a host of cooperative ventures. Divided there is little we can do--for we dare not meet a powerful challenge at odds and split asunder.

To those new states whom we welcome to the ranks of the free, we pledge our word that one form of colonial control shall not have passed away merely to be replaced by a far more iron tyranny. We shall not always expect to find them supporting our view. But we shall always hope to find them strongly supporting their own freedom--and to remember that, in the past, those who foolishly sought power by riding the back of the tiger ended up inside.

To those people in the huts and villages of half the globe struggling to break the bonds of mass misery, we pledge our best efforts to help them help themselves, for whatever period is required--not because the

communists may be doing it, not because we seek their votes, but because it is right. If a free society cannot help the many who are poor, it cannot save the few who are rich.

To our sister republics south of our border, we offer a special pledge--to convert our good words into good deeds--in a new alliance for progress--to assist free men and free governments in casting off the chains of poverty. But this peaceful revolution of hope cannot become the prey of hostile powers. Let all our neighbors know that we shall join with them to oppose aggression or subversion anywhere in the Americas. And let every other power know that this Hemisphere intends to remain the master of its own house.

To that world assembly of sovereign states, the United Nations, our last best hope in an age where the instruments of war have far outpaced the instruments of peace, we renew our pledge of support--to prevent it from becoming merely a forum for invective--to strengthen its shield of the new and the weak--and to enlarge the area in which its writ may run.

Finally, to those nations who would make themselves our adversary, we offer not a pledge but a request: that both sides begin anew the quest for peace, before the dark powers of destruction unleashed by science engulf all humanity in planned or accidental self-destruction.

We dare not tempt them with weakness. For only when our arms are sufficient beyond doubt can we be certain beyond doubt that they will never be employed.

But neither can two great and powerful groups of nations take comfort from our present course--both sides overburdened by the cost of modern weapons, both rightly alarmed by the steady spread of the deadly atom, yet both racing to alter that uncertain balance of terror that stays the hand of mankind's final war.

So let us begin anew--remembering on both sides that civility is not a sign of weakness, and sincerity is always subject to proof. Let us never negotiate out of fear. But let us never fear to negotiate.

Let both sides explore what problems unite us instead of belaboring those problems which divide us.

Let both sides, for the first time, formulate serious and precise proposals for the inspection and control of arms--and bring the absolute power to destroy other nations under the absolute control of all nations.

Let both sides seek to invoke the wonders of science instead of its terrors. Together let us explore the stars, conquer the deserts, eradicate disease, tap the ocean depths and encourage the arts and commerce.

Let both sides unite to heed in all corners of the earth the command of Isaiah--to "undo the heavy burdens. . . (and) let the oppressed go free."

And if a beachhead of cooperation may push back the jungle of suspicion, let both sides join in creating a new endeavor, not a new balance of power, but a new world of law, where the strong are just and the weak secure and the peace preserved.

All this will not be finished in the first one hundred days. Nor will it be finished in the first one thousand days, nor in the life of this Administration, nor even perhaps in our lifetime on this planet. But let us begin.

In your hands, my fellow citizens, more than mine, will rest the final success or failure of our course. Since this country was founded, each generation of Americans has been summoned to give testimony to its national loyalty. The graves of young Americans who answered the call to service surround the globe.

Now the trumpet summons us again--not as a call to bear arms, though arms we need--not as a call to battle, though embattled we are-- but a call to bear the burden of a long twilight struggle, year in and year out, "rejoicing in hope, patient in tribulation"--a struggle against the common enemies of man: tyranny, poverty, disease and war itself.

Can we forge against these enemies a grand and global alliance, North and South, East and West, that can assure a more fruitful life for all mankind? Will you join in that historic effort?

In the long history of the world, only a few generations have been granted the role of defending freedom in its hour of maximum danger. I do not shrink from this responsibility--I welcome it. I do not believe that any of us would exchange places with any other people or any other generation. The energy, the faith, the devotion which we bring to this endeavor will light our country and all who serve it--and the glow from that fire can truly light the world.

And so, my fellow Americans: ask not what your country can do for you--ask what you can do for your country.

My fellow citizens of the world: ask not what America will do for you, but what together we can do for the freedom of man.

Finally, whether you are citizens of America or citizens of the world, ask of us here the same high standards of strength and sacrifice which we ask of you. With a good conscience our only sure reward, with history the final judge of our deeds, let us go forth to lead the land we love, asking His blessing and His help, but knowing that here on earth God's work must truly be our own.

